

全校研究テーマ：子どもの声が響く授業

指定校 1 年次 岡谷市立岡谷西部中学校 戸谷 良住

I 研究の概要

岡谷西部中学校では平成 30 年度 N I E 研究指定校になり、学校全体で新聞を活用した授業作り、学校創りを実践しています。

特に力を入れていることは、ただ授業で新聞を利用することではなく、新しい学力観に基づく思考力・判断力・表現力をはじめとする身に付けたい 3 つの資質・能力を明確する中で、「社会に目を向け、社会（人・モノ・こと）とつながる」もの、手段としての新聞を考えていることです。現実社会と教科書学習（学習内容）をつなぐ、社会参画の手段として新聞を考え、有効に活用しようと実践をしています。新聞を作る側（記者）の『伝えたい思い』に出会い、その出会いから何を感じ、どう考え、どう発信していくか、この一連の学習の中で、教科と社会とがつながっていく、とても大切な手段になっていくと考えています。

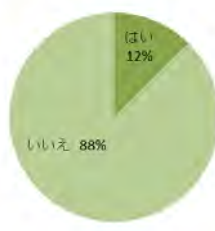
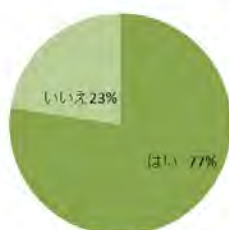
本校では特定の教科に任せ、その教科だけに特化された取り組みをするのではなく、全ての教科・領域で、全職員が関わって取り組んでいます。1 学期には、各々の先生方が、どんな実践を行う予定なのか、新聞を活用しようとする思いを共有化できるような一覧表（N I E 実践年間カリキュラム）を作成しました。（別紙参照）そして、授業ばかりでなく、学活をはじめとする、全教育活動で新聞を活用していこうとしています。授業と学校生活の両輪における実践で N I E を進めようと考えています。

II 本年度の現状と具体的な取り組み

1. 生徒のアンケートを実施

生徒の新聞に対する意識や利用の仕方をアンケート調査しました。

- ① 新聞をとっていますか ② 毎日読みますか



2. 新聞コーナーを設置



様々な新聞を提供していただけることになりましたので、校内に 3 ヲ所「新聞コーナー」（各学年の共有スペースに）を設置しました。

→



←先生方が読んでほしい記事に付箋を付れたり、開いておいたりしています。

日々の新聞は学習室に保存されています。

→



3, 「新聞に触れて、見て。読んでみよう！」

社会科の時間に以下の指示で、新聞に触れる時間を設けました。

今日の授業は40分間、新聞を自由に読んでみてください。読む記事は指定しません。また、1年間の「信濃毎日新聞」が保存されていますのでいつのものでもかまいません。
終わりの10分で、40分間新聞を読んだ感想をこの学習カードに記入してください。

A生：新聞はやっぱり読んでみて、難しいし、眠くなってくる。個人的には（テレビの）ニュースの方がいいと思った。

B生：情報量が多くて分かりづらい。



4, 生徒向け出前講座の実施【6月13日（水）3年／7月18日（水）1・2年】

信濃毎日新聞社の方に来校していただき、全校対象（クラス毎）に出前講座を実施していただきました。



5, 職員向け出前講座【8月20日（月）実施】

夏休み中の研修として、2時間ほどNIE講座を実施しました。信濃毎日新聞社読者センターの方を講師としてお招きし、新聞の構成から教えていただきました。

先生方の感想としては、

○何気なく読んでいた新聞の構成がわかって、より効率的に新聞から情報を得る手段を学べました。

○授業に使ってみたいくなりました。



6, 日常の学校生活でも新聞が扱われています。

☆各教室で新聞を積極的に扱っているクラス



7, 12月5日(水) 音楽と社会科の授業を公開

4時間目 音楽科：鑑賞～新聞の“表現”から音楽の「良さ」に触れる～

5時間目 社会科：裁判制度と死刑制度

8, 新聞を用いた授業の計画案（各授業担当者が年度当初に新聞を用いた授業計画を立てました）

NIE実践計画						
	教科担任	学年	単元名	予想される新聞記事	新聞に親しむはたらきかけ	実際に利用した授業(授業内容)
1	戸谷 良住	2年	日本の諸地域(長野県)	長野県の農業・産業に関する	○家庭学習に新聞の記事を利用している。 ○授業の導入で新聞に載っている記事を利用している。 ○幼児救出の記事から学活で人の生き方を伝えた。	○平均余命や特殊出生率、更には人口ピラミッドによる日本の人口(未来予想)を最新の新聞記事から学んだ。(思考力・判断力・表現力) ○サンマの不漁記事(家庭学習) ○西日本の豪雨災害の新聞記事から防災に必要なことは何か多面的な学習をした。(情報活用力)
		3年	私たちの暮らしと経済(日本の労働の課題)	働き方改革・過労死関わる記事		○技能実習生に関わる法改正の記事を用いた。実際に外国人労働者がどのような労働環境で仕事をしているのか。雇い入れる側の考えや国としての立場を知る上で有効であった。 ○F2戦闘機の生産に関わる記事を用いて自衛隊の予算と平和主義を考えた。
		3年	人間の尊重と日本国憲法(新しい人権)	LGBTに関わる新聞記事		
2	五味 雅	1年	Sports for Everyone	オリンピック、パラリンピックに関わる記事	○授業で新聞記事を配布して、オーラルイントロダクションに利用。	○障がい者スポーツ、パラリンピックについての記事を読み、誰にでもできるスポーツについて知ることができた。
		3年	The Story of Sadako	戦争に関わる記事	○授業で新聞記事を配布して、オーラルイントロダクションに利用。 ○新聞記事を読んで自分の感想を英作文させる。	○原爆についての悲惨さ、恐ろしさを知ることができた。 ○自分の考えをいろいろな表現で表すことに、教科書の本文だけでなく、違う角度からの知識を考えることができた。
3	石井 俊彦	3年	生命の連続性	遺伝に関わる記事	○時事問題をタイムリーに取り上げる	○中国で行われたゲノム編集を子どもに応用し、その子どもが産まれたという記事。 ーリスクについて考えることができた。
		3年	地球と宇宙	宇宙開発に関わる記事	○時事問題をタイムリーに取り上げる	○太陽接近に関わる宇宙開発の記事 ー太陽までの距離や水星の表面温度を例にあげ、それよりも接近した宇宙船の技術の高さを考えることができた。
		1年	道徳	バリアフリーに関わる記事	○車いすの方の生活しにくさについて考える	○踏切で事故が多いという記事 ー何が生活の中で「バリア」になっているか考えることができた。
		学級経営(1-2)	時事問題に興味を持つ	毎日の記事で担任が読ませたいと思った記事	○時事問題をタイムリーに取り上げる	○8月31日から新聞記事を1つずつ取り上げ、掲示したり、時には短学活で話したりする。
4	滝澤 秀夫	1年	鑑賞(郷土の美術)	イルフ童画館 武井武雄に関する記事		○「世界の名画との語らい」(海外美術館) (聖教新聞 2018 PR版 秋季号) ピカソ「ゲルニカ」 鑑賞の時間に作品制作の背景を紹介しながら説明を加え、その後美術室内に掲示し生徒たちの意識を高めるように掲示した。
		2年	鑑賞(仏教美術 寺院仏像の美)	奈良・京都に関する記事		
		3年	鑑賞(生活の中の美)	シルクに関する記事		○未実施ではあるが、1・2年と同様に鑑賞の授業で新聞を利用する予定。
5	小口 梨菜	1年	日本の音楽(尺八・箏)	歌舞伎・オペラ・合唱など、諸芸術に関する記事	○鑑賞の分野で取り上げる	○未実施ではあるが、鑑賞の授業で新聞を利用する予定。
		2年	総合芸術(歌舞伎・オペラ)			

III 音楽科の研究授業

鑑賞～新聞の“表現”から音楽の「良さ」に触れる～

指定校1年次 岡谷西部中学校 小口梨菜

NIE 公開授業実践から

I. 学習指導案

鑑賞～新聞の“表現”から音楽の「良さ」に触れる～

1. 単元のねらい(単元終了時にこうなる)

西洋クラシック音楽から民族音楽まで、様々な種類の音楽を学んできた生徒が＜生徒の実態＞日常生活における音楽の役割について考える場面で＜学習問題＞、音楽と生活のつながりを意識しながら＜音楽的な見方・考え方＞、新聞記事の中の音楽の役割について考え、発表することを通して＜学習課題＞、自らの生活における音楽の意味や役割について考え、音楽に親しんでいく態度を養う＜学びに向かう人間性＞。

2. 本時の位置 3時間中の第2時

平成30年 12月5日(水) 第4校時

学級：3年2組 場所：第1音楽室

人数：25人(男子13人、女子12人)

3. 本時のねらい

興味を抱いた新聞記事を選び、その記事中の音楽の意味や役割について考えた生徒が、考えたことを発表し、実際にその曲を聴くことを通して、日常生活における音楽の「良さ」（＝意味や役割）について考えることができる。

4. 本時の流れ

	内容	留意事項
学習問題	日常生活における音楽の「良さ」はどのようなものだろうか。（※前時と同様）	・前時の復習として、対象の新聞を読んでもるように促す。
つなぎ	・前回新聞だけ使ったけど、実際に聴いてみないと分からないよね。聴きたいなあ。	・生徒の反応や対話から課題を据えるように心がける。
学習課題	新聞の中の言葉に着目しながら音楽を聴いて、音楽の「良さ」を考えよう。	・自分が調べた音楽だけではなく、他班の発表を聞き、感じたことをワークシートに記入するように促す。

5. ねらい達成に向けた手立てと留意点（主体的・対話的な学びの場づくりについて 他）

- ・新聞の記事を選ぶ場面では、自分が興味を抱いた記事、表現、言葉を選ぶように促す。（主体的）
- ・発表に向けた準備の場面では、班の中でお互いの考えを伝え合う。（対話的）

6. 素材と生徒

素材	素材の価値と生徒との関わり
新聞記事を選ぶ場面	あらかじめ用意された10種類の新聞記事から自分達の関心が高い記事を選択することを通じて、生徒達の音楽に親しんでいく態度が高まることが予想できる。
記事① (2018年11月28日信毎)	バリ島で木遣りが披露されたという記事。御柱の木遣りは諏訪地域の生徒が幼少期から親しんできた文化であり、身近に感じることが予想されるため、主体的な取り組みも期待できる。「木やりには、国境を越えて人の心を揺さぶる力がある」といった記述から、音楽は世界共通言語になるという「良さ」（＝役割）に気づくことが予想できる。
記事② (2018年9月6日信毎)	9月23日に岡谷市カノラホールで行われる「バルカン室内管弦楽団」の演奏会についての記事。下諏訪町出身の指揮者、柳澤寿男さんが「信州を一つにしたい」という想いで演奏会に臨んだ。生徒達は、演奏されたベートーヴェンの交響曲第9番は、ベルリンの壁崩壊の際に流されたということを「聞こえる」の学習を通して知っている。 音楽は、「人と人とをつなげる力がある」という音楽の力に気づくことが予想できる。
新聞記事の内容をまとめて、発表する場面	新聞記事の内容をまとめる場面では班員同士が協力して活動することで、主体的・対話的で深い学びがなされることが予想される。また、各班で異なる新聞記事を扱うことで、クラス全体では多くの事例に触れられるため、自然な流れで音楽の多様性に気づけると予想できる。
本時を支える既習事項	「音楽史（『4分33秒』を含む）」、「インドネシアの音楽（世界の音楽）」、「日本の音楽（能・雅楽・歌舞伎）」、「アイダ（オペラ）」等。

7. 見とどけについて

（1）音楽は、生活には欠かせないものであり、「楽しさ」「面白さ」「癒やし」、そして「想いを伝え」たり「人間の心を動し」たりといった効果をもたらしているということに気づかせたい。更に、世の中には多様な音楽が存在しており、それぞれの音楽に「良さ」（＝意味や役割）があるということにも気づかせたい。最

最終的に、ワークシートの記述から、生活における音楽の意味や役割について考えられたかどうかを評価する。

(2) 不十分な生徒にはこうする

・手が止まってしまう→決まった1つの答えはないから、自由に書いてみようと呼ぶ。また、「なぜ家で音楽を聴くのか」などと問い、自分のこととして考えられるように具体例を挙げて支援する。

8. 生徒の学びの深まり

(1) 単元展開概要

時間	生徒の意識の流れ 問い (学習問題)	学習課題
1	問い 日常生活における音楽の「良さ」はどのようなものだろうか。 ・(自分が好きな音楽を挙げてみて…) 普段私達が聴く音楽の種類って、割とジャンルに偏りがあるかも。 ・他の音楽についても知りたいなあ。 ・新聞を使えば色々な種類の音楽に触れられるかも。	○新聞記事を読んで、記事中の音楽の「良さ」について考えてみよう。
2 本 時	問い 日常生活における音楽の「良さ」はどのようなものだろうか。(※前時と同様) ・聴いてみたいな。	○新聞の中の言葉に着目しながら音楽を聴いて、音楽の「良さ」を考えよう。
3	様々な意味があったけど… 問い 自分にとっての音楽の「良さ」とはどのようなものだろうか。	○自分にとっての音楽とは何か、自分の言葉で説明しよう。

(2) 学びの履歴

①「気持ちを込めて歌いたい」(社会科との合同授業) < N I E から >

「聞こえる」(合唱曲)の授業では、歌詞に登場する「天安門事件」や「ベルリンの壁崩壊」についての新聞記事を配布した記事の内容を受けて、K 生は「色々な事件や出来事による人々の苦しみや悲しみ、また喜びを、その(事件が起こった)当日に戻ることはできないけれど、この歌を気持ちを込めて歌うことが、僕たちにできることだと思います。」と綴った。この授業では、新聞から人の想いを読み取ったことで、過去の事象と自分とを結びつけ、その想いを歌唱で表すという“表現”につながった。

②「世界には色々な音楽があるんだな」(知識)

様々な民族音楽について学ぶ授業の中で、生徒達はインドネシアの音楽であるケチャのヴォイスアンサンブルを体験した。この体験を通して、K 生は「普段耳にしている歌や曲とは異なり、声は何層にも重なることによって曲が構成されていた。また、実際に体験してみると、声を重ねるのがとても難しくて、曲になっていないように感じた。世界には色々な音楽があるんだな。」と感想を綴った。世界の様々な音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性を理解することができた。



II. 授業の様子

6つの班が、それぞれ選んだ記事の内容とその音楽の「良さ」について発表を行った。

①内容：信濃の国

良さ：長野県の良さが伝わる

②内容：第九・信濃の国について

良さ：人と人とをつなぐ

③内容：バリ島での木遣り

良さ：国境を越えて人の心を揺さぶる

④内容：ヴァイオリンの弓作りについて

良さ：誰かの心を動かすこと 裏での働き

⑤内容：ボヘミアン・ラプソディ

良さ：普通の映画とは違う魅力

劇中の慣習と一体

⑥内容：DA PUMP の U. S. A

良さ：人々を楽しませる面白さ



教員による木遣りの実演も行った。



他の班の発表とその音楽を実際に聴いた後、自分が考える音楽の「良さ」についてワークシートに記入した。

「音楽の良さは人それぞれ違い…」と自分の意見を発表した。

III. 成果と課題（題材を振り返って）

成果①新聞の良さに気づけた

K 生は、新聞を読んだ感想をこのように綴った。「どの記事も、音楽に対する愛や音楽を少しでも好きになり、親しんでほしいという強い意志があるのではないかと思います。」そして、その後の新聞記者からのインタビューでは、「音楽の記事に興味を持てたか」という問いに対して「はい。」と答えていた。本校が掲げている「新聞に『馴れる』」という目標に、近づいたのではないかな。

成果②地元の記事を用いることで、自分の音楽との関わりについて考えることができた

今回扱った新聞には、岡谷市カノラホールでの演奏会や信濃の国といった、生徒達にとって身近な記事が載っていた。地方紙を用いた結果、教科書には載っていないような身近な音楽に触れることができた。

成果③音楽の多様性に気づけた

N 生は、「同じ音楽という部類でも、ジャズやロック・J-POP など様々なジャンルの音楽があります。そして、そのジャンルごとに違う良さがあると思いました。…今回の授業で改めて、音楽の良さを知ることができました。」と感想を綴った。様々なジャンルの音楽がランダムに掲載された新聞を読むことで、生徒たちは音楽の多様性に気づけた。インターネットを用いて同じような授業を行った場合、記事を選ぶ中で生徒の好みばかりが反映され、扱うジャンルに偏りが生じたであろう。新聞だからこそ、多様な音楽を教材化できたと考えられた。

成果④言葉から音楽の「良さ」について考えられた

通常の鑑賞の授業では、音楽を聴いた後、その感想を記述するという流れで進む。今回は、その逆のプロセスで音楽へのアプローチを行った。言葉から音楽を想像し、「聴きたい」という想いを育む。そして、聴く。このような新しい試みは、今重要視されている言語能力や未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」の育成にもつながると考えられた。

成果⑤音楽の「良さ」（≒意味・役割）に気づけた

S 生は、生活ノートにこのように綴った。「他の班の発表を聞いて、「なるほど。」とか、「そうなんだ。」と考えました。今まで当たり前だと思っていた音楽ですが、“音楽の良さ”なんて考えたこともなかったから、今回の発表を聞いて音楽の良さがとてもよくわかり、音楽に対する視点が変わった気がします。」また、H 生

は、「音楽には様々な要素があり、一言では言い表せないくらいたくさんの魅力があることに気づかされました。改めて、音楽の大切さを実感することのできる1時間でした。」と綴った。そして、K生はこう述べた。「私は大変困ることに気づきました。音楽がなくなったら、アニメなどのシリアスな部分がとてもシュールになると思います。それに、音楽は娯楽でもあります。それが、なくなったら何をすればいいのでしょうか。」また、I生は3時間目にこのように綴った。「最初は、暇なときとかに暇つぶしとして音楽を聴いて楽しむことが「良さ」だと思っていましたが、それ以上に「良さ」がたくさんあって、言語がちがくても国境を越えて人々の心を動かし、一体感をつくりだすこともできるし、音楽は映画や映像とかで雰囲気作りだったり、いろんな世界観を感じたりすることができるので、音楽によって職が増えたり、お金をかせぐことができるため、社会にとっても大きな影響を与えてくれているな、と思いました。だからこそ、たくさんの人々が音楽に親しみをもっていて、これからもいろんなジャンルの音楽が生み出されているのだと思いました。」

当たり前前に存在となっている音楽について様々な例を用いて考えることで、その「良さ」（≒意味・役割）に気づき、音楽観を広げることができたのではないかと考えられた。また、音楽に親しんでいく態度を養うことにつながったと考えられた。更に、今回の学習は上記の下線部に見られる生徒の姿から、社会・世界と関わりよりよい人生を送るために必要な「学びに向かう力・人間性等」の涵養につながったのではないかと考えられた。

課題①わかりやすい発表へー新聞の逆三角形を用いてー

生徒たちによる発表内容を、教員が一言で総括し、要点をフラッシュカードでまとめてしまった。新聞が見出し・リード・本文という逆三角形で構成されていることを応用し、生徒たちの発表も要点から発表させるようにすればよりわかりやすかったと研究会では指摘された。最もなことであり、反省した。この考えは、様々な発表に応用できると考えられるため、今後の授業で取り入れていきたい。

課題②技能教科における新聞活用の割合

「鑑賞」の授業として扱うと、音楽を聴いている時間が少な過ぎると感じた。教科の特性上、「聴く」「歌う」「創る」「演奏する」のいずれかを入れる必要がある。確かに、今回の授業では音楽を聴いた場面はあったが、言語活動に偏りすぎてしまったとも捉えられる。今後の課題としていきたい。

IV、得られた成果と残された課題

○全体を振り返って

指定校の1年次ということもあり、学校の生活の中に、新聞がある環境創りをめざした。そのために、生徒により近い位置に新聞を置き、少しでも新聞に触れる機会を多くした。しかし、ただ置いても生徒たちにとっては新聞が遠い存在であり、置くだけでなく、もっと新聞を読みたくなるような先生方からの積極的な働きかけが必要であった。具体的には、日常的に注目記事の紹介等を行うことが必要であった。先生方の中でも、新聞を読む先生は限られており、わずかな先生方しか、職員室や家庭で新聞を読んでいなかった。「ネットでニュースを見るから十分です」という反応もあった。生徒たちがより新聞に触れるよう（読むように）にしたいのであるならば、先生方が新聞を日常的に読むことをしなくては難しいと言わざるを得ない状況であった。全ての先生とはいえないが、年度末までに2人の若い先生が新聞を開いている姿が、職員室で見られるようになったことはうれしい変化であった。来年度はその雰囲気をもっと広めることが必要であると感じた。その中で惚れ込んだ、力のある記事を授業に中で使えることをめざしたいと感じた。

また、年度当初、生徒たちの新聞に対する印象は非常に悪かった。新聞には難しい漢字や、表現が目立ち、見るだけでも大きな壁があった。しかし、じっくり新聞を読む時間を確保したり、授業の中で記事のポイントを示したり、特定の教科に偏ることなく、全ての教科で新聞を活用した結果、生徒が新聞に抱いている壁が徐々に取り払われたということも実感できた。そして、新聞の中の「ヒト・

また、「新聞は社会とつながる（知る）ために必要なものだと考えるか」というアンケートの問いに対し、年度末に多くの生徒が必要を実感できるまでに変化した点も大きな成果であると考えられる。しかし、教科によっては「どのような力をつけたいか」（どんな資質・能力を身につけさせたいか）を明確にし、「新聞を使う意図」を明確に持つことが必要であることも感じた。

- ・今まで新聞を読もうとはあまり思わなかったけど、授業でやってから、少しでも新聞を読む時間が増えました。
- ・子どものことについて書いてあるページが少ないなと思った。
- ・公共施設などに新聞があると手に取るようになりました。また、親に薦められた記事は読んでみるようになりました。
- ・時間がある時は積極的に読むようになりました。
- ・私は週に1・2日くらいしか読まないけれど、いろんなことが勉強になります。文章力がついたり、読解力がついたりして良いと思います。
- ・新聞を利用することで、難しい言葉の意味を理解すること、大切な部分を読み取ることができる。国語などの文章で考えて書くことが得意になった。新聞を読むっていったら、テレビ欄しか読まなかったけど、国語などが得意になるようならと思ってしっかり政治などの欄も読み始めるようにした。

同一年生の4月（年度初め）と2月（年度末）の家庭学習を比較したものである。社会科の家庭学習の1つで、新聞の記事を読み、要点をまとめ、テーマに沿って自分の考えをまとめる学習を、年間で20回以上実施したものである。新聞から事実を把握する力（読解する力）、理解して自分の考えをまとめる力（文章に表現する力・書く力）、いずれも高まっていると考えられた。生徒自身もこの学習の成果を実感した。

[illegible]